

支店長

NIPPO
執行役員中国支店長

おおば のぶひで
大場 信秀氏



組織力で受注確保へ

して「凡事徹底」を支店運営の柱に置く。「ちょっとおせっかい」と自己を分析しながら「従業員がやりがいを持って職場づくりにしっかり取り組む」と抱負を語る。

防災・減災対策は急務だが、少子高齢化の影響で「中長期的にインフラ整備の配分は厳しくなる」と分析。「われわれ

10年ぶりの中国地方勤務。

「仕事の基本はどこでも一緒。確かなものづくりを通して顧客の信頼を得ること」ときっぱり。「当たり前のこと高いレベルで徹底的に実践できるところ一流」とし、一貫して顧客の信頼を得ることとネットワークを便利に使うだけじゃぶれしい」と語る。舗装事業を核としながら建築事業、開発事業、土壌浄化、スポーツ施設などの受注にも注力。「5県の統括事業所長とも連携し、地域に合った取り組みを模索していく」考えだ。働き方改革では賃金面はもとより「夢を抱き、挑戦できるようなバックアップ体制を強化していく。若い人たちがどう成長していくのか楽しみだ」と語る。

趣味はゴルフ、読書。学生時代からの少林寺拳法は全日本学生、全日本の大会に出場した実力。この経験を生かした「整体が特技になった」と笑顔で話す。

(4月1日就任。建設省建設大学校へ中訓)建設工学課程・海外課程卒。静岡県出身、59歳)



支店長席

当たり前前のごことを高いレベルで

北信越、九州に次いで3カ所目の支店長就任となる。「当たり前のごことを高いレベルで徹底的に実践してもらいたい。基本ができてこそ一流である」と、「凡事徹底」

NIPPPO中国支店
執行役員支店長

おわば
大場 信秀氏
のぶひで

を支店運営方針とし、「そのためにも気軽にまじめな話ができる雰囲気をつくっていききたい」と抱負を語る。

激甚化する災害やコロナ禍、少子高齢化などの影響により「中長期的にインフラ整備の配分は難しくなる」と分析。厳しい市場環境の中で「われわれができることを確実に感じ取って提案していくことが大事」と、舗装事業を核としながら民間の設備投資にも注視し受注を確保する。具体的には建築や開発事業、土壌浄化、スポーツ施設などに注力する方針を示す。「中国地方各県を拠点とする統括事業所と連携しながら各地の特色に合った

やり方を模索していきたい」とも。

1986年の入社以来、北海道、関東、東北、関西各地の現場に従事。2006年からの3年間は、NIPPPO労働組合委員長、道路建設産業労働組合協議会議長を歴任した。「道路建設産業の労働環境や従事者のやりがいについて考えた。特に労働時間や魅力化について自社、同業他社の経営層と意見交換できたことが大変勉強になった」と振り返る。

趣味は読書、ゴルフ。学生時代から少林寺拳法を学び、全日本学生、全日本の大会に出場した実力者。その経験を生かし「整体が特技になった」と笑顔で話す。建設省建設大学校(中訓)建設工学課程・海外課程卒。静岡県磐田市出身、59歳。